

2012 年度春学期の授業評価アンケート調査について

東洋大学国際地域学部

2012 年 10 月 18 日

国際地域学部 F D 委員会

国際地域学部では、2012 年度春学期に授業評価アンケートを実施しました。

実施科目数は 128 科目(国際地域学科 29、国際観光学科 22、非常勤 57、イブニング 10、イブニング非常勤 10)、回答した学生数は延べ 7727 人、回答率は 74%でした。みなさんのご協力に感謝します。

国際地域学部では、毎年実施する授業評価アンケートの結果を教員の授業改善に向けた議論に役立てています。わかりやすい授業をすることと、それぞれの分野に必要な知識をしっかりと身につけることとの両立をめざして改善に取り組んでいるところです。

・集計結果

集計結果は表 1、図 1 のとおりです。問 1 は「あなたはこの講義をどのような基準で選びましたか」という質問であり、必修科目なども含まれているため学部・学科等の集計では対象外としています。授業ごとに評価結果を分析していますが、ここでは省略しました。

全体的に 3.75～4.34 の評価を得ています。評価が 4 より低かった項目は次の 5 問でした。

問 3.授業に意欲的に取り組みましたか(3.89) (昨年度 3.85)

問 4.授業内容をよく理解できましたか(3.81)(同 3.74)

問 7.授業内容に触発され次の意欲にむすびつきましたか(3.75)(同 3.67)

問 10.専門知識や用語の説明はわかりやすかったですか(3.98)(同 3.91)

問 14.学生の授業参加を促す努力をしていましたか(3.96)(同 3.89)

今回の結果を同じ時期に当たる昨年度の春学期と比べると、評価が 4 より低い項目が昨年度の 10 から 5 に半減しています。また、今年度の評価が 4 以下であった五つの項目についても、いずれも昨年度より点数は上がっています。これは、各教員の授業に取り組む日々の工夫や努力の成果が反映されたものと考えますが、全ての項目が評価 4 を超えるよう、授業の改善に向けたさまざまな努力が今後とも続けられる必要があります。

一方、評価が高かった項目は次の 5 つで、学生の皆さんが積極的に授業に出席し、熱心に取り組んだ努力を反映しています。これらの項目は、さらに高い評価となるようにしていくことが大切です。

問 2.この授業によく出席しましたか(4.28)

問 8.授業開始・終了の時間は守られていましたか(4.32)

問 9.授業の進度は適切でしたか(4.18)

問 12.授業へ熱心に取り組んでいましたか(4.34)

問 13.学生の質問に対する対応は適切でしたか(4.13)

表1 授業評価アンケートの集計結果

	設問	学部全体	国際地域学科	国際観光学科	イブニング	非常勤
		昨春				夜間非常勤
1	あなたはこの講義をどのような基準で選びましたか					
2	この授業によく出席しましたか	4.28	4.25	4.31	4.34	4.27
		4.29				4.27
3	授業に意欲的に取り組みましたか	3.89	3.86	3.89	3.86	3.90
		3.85				4.04
4	授業内容をよく理解できましたか	3.81	3.86	3.78	3.62	3.82
		3.74				3.96
5	授業内容はシラバスと整合していますか	4.03	4.10	3.95	3.87	4.06
		3.99				4.15
6	教科書、参考書、配布資料などは役に立ちましたか	4.00	4.03	4.03	3.86	3.95
		3.94				4.24
7	授業内容に触発され次の意欲にむすびつきましたか	3.75	3.79	3.72	3.54	3.78
		3.67				3.90
8	授業開始・終了の時間は守られていましたか	4.32	4.37	4.10	4.24	4.46
		4.34				4.45
9	授業の進度は適切でしたか	4.18	4.26	4.05	3.98	4.25
		4.10				4.32
10	専門知識や用語の説明はわかりやすかったですか	3.98	4.08	3.93	3.67	3.99
		3.91				4.15
11	授業は要点をとらえた構成になっていましたか	4.04	4.10	4.01	3.79	4.04
		3.96				4.19
12	授業へ熱心に取り組んでいましたか	4.34	4.41	4.25	4.18	4.39
		4.30				4.42
13	学生の質問に対する対応は適切でしたか	4.13	4.17	4.05	3.88	4.21
		4.05				4.30
14	学生の授業参加を促す努力をしていましたか	3.96	4.06	3.88	3.79	3.97
		3.89				4.08
15	話し方、板書またはそれに相当する説明は適切でしたか	4.02	4.10	3.93	3.74	4.08
		3.93				4.15
16	この授業の総合評価をおこなってください	4.06	4.14	4.01	3.78	4.07
		3.98				4.27
	回答者数	6684	1963	1702	681	1893/445
	実施科目数	119	28	19	15	44/13

出典：国際地域学部 2012 年度春学期授業評価アンケート結果から作成

・自由記述部分

さまざまな意見が自由記述シートに記されており、学生のみなさんの多様な意見がわかります。その中で、特徴的な点をまとめてみました。それぞれの授業での改善と学部・学科としての改善が重要です。

【国際地域学科】

1. 国際地域学科の学生の自由記述による意見では、授業中に配布されるレジюмеやプリントに関する記述が目立ちました。学生の意見は、「レジюмеが見やすかった」「プリントが参考になった」「レジюмеが授業の理解に役立った」等教員が準備するレジюмеやプリントを評価する意見が多く寄せられました。レジюмеや配付資料の分量、理解しやすさ、さらにレジюмеへの書き込み方式の採用等授業に対する工夫の有無を学生が重視しているように思われます。レジюмеやプリントの利用、配布にあたって、教員は分量や情報量の多寡だけでなく、その表現や記述内容など学生が理解しやすい者となっているかどうか十分に注意を払う必要があります。

2. 板書についても、教員の文字が読みやすい、分量が適当であるなど肯定的な意見が多く、講話（話しぶり）についても、「内容が分かりやすい」、「おもしろかった」、「説明が良かった」等当該授業の内容が理解しやすいよう各教員が様々な工夫を凝らしていることが、学生の学習意欲や理解度の向上に役立っているといえます。もっとも、わかりやすい授業かどうかの評価のポイントを置く学生が多いことから、「板書が黒板の下になされるために読みにくかった」とか、「文字が汚くて判読しにくい」といった不満が一部で出されてもおり、板書する場合には、内容が正しく伝わっているかどうか、教室の後方の学生が見え難くないか等教員は細心の注意を払う必要があります。

3. DVD、映画、ビデオ等映像資料を用いる講義が多いこともあるでしょうが、映像媒体を巧みに活用している授業は、聴講する学生の印象に残りやすいことや、興味が沸くこともあり、毎年、どの分野の授業においても高い評価を得ています。また講義に当たりパワーポイントが使用される授業を歓迎する声が非常に多く、ビジュアル化された授業は学生の理解を促し、また授業内容に対する好奇心を高める効果もあることが窺えます。

4. 学生の不満としては、教室の後方にいる学生の私語が授業の妨害となっているというもので、その改善、是正を求めています。受講人数が多く、大教室で行われている授業に限られていますが、講義の進捗に支障がない範囲で、教室後方の静謐を確保するよう教員サイドの注意や目配せが必要です。もっとも、昨年度春学期に比べて、私語に対する不満の声は少なくなっており、改善が図られているものと考えます。

【国際観光学科】

1. 「教科書の内容がきちんと講義されているか」「専門用語の解説がわかりやすかったか」等観光学科の学生は授業の具体的な内容に対して厳しく評価しています。これは、国家試

験を受験する学生が多く、是非試験に合格したいという強い思いや希望から、意欲的に授業に取り組んでいることの反映と思われます。またそうした学生の厳しい視線を受けても、高い評価を得ている科目が多かったことは、教員の普通の授業に取り組む姿勢や努力が実っているものと嬉しく思います。

2. 地域学科では、教員の雑談や逸話などが面白かったという意見が散見されますが、観光学科ではそうした意見が少なく、「試験に出るポイント」「試験問題を解くテクニック」に精しく触れた科目に学生は高い評価を与えています。これも1と同様、国家試験合格という明確な目標があるためと思われます。観光学科ではプロの職業人を目指す学生が多く、両学科の学生を対象に講義をする教員は、こうした学科毎の特徴を適切に把握しておくことが大切です。

3. パワーポイントや映像資料を活用した科目は、両学科とも高い評価を得ていますが、特に観光学科の場合は、観光地、ホテル、レジャー施設などを視覚資料を用いて講義をする科目が非常に高く評価されています。一般的な教養の習得に留まらず、学生の多くにとっては将来の自身の職場ともなる場所ですから、関係する科目を担当する教員は、引き続き、DVDやVHS、写真データ等映像・視覚資料をフルに活用した授業を行い、学生の期待に応えてもらいたいと思います。

4. 授業に遅れてくる教員への不満が僅かながら出ていた反面、授業中の私語に対して、教員が厳しく注意していることを多くの学生が評価しています。試験合格に向けて真剣に授業に臨んでいる学生が多いことを示していると思われませんが、私語そのものがなくなるよう、教員、学生とも一層の努力を期待したいところです。

【両学科共通】

1. 今回、地域、観光の両学科とも、「教室の空調の調整が悪い」「冷房が効き過ぎていて寒かった」「教室が暑すぎる」等教室の温度調節に関する不満が多く出ていました。これは、機械設備自体の問題というよりは、授業中、教員が教室の温度管理に十分に注意を払っていないことが原因と思われます。特に大きな教室の場合、後方の状況は教壇にいる教員にはわかりにくいでしょうから、授業の合間に適宜、学生に教室の温度が適切かどうか、尋ねてみるような工夫が必要と思われます。

2. 「教員の声が通りにくい」「声が籠もっている」ため、講義が聞きとりにくいという意見も両学科で散見されました。声が大きいか小さいかではないので対応が難しい課題ですが、学生にとってなるべく聞き取りやすい発声となるよう各教員に工夫と努力を期待します。適切に聞こえているかどうか、教員は授業中、適宜、学生に尋ねることも必要でしょう。

【イブニングコース】

1. 昨年度春学期と比べて、授業の進度・進め方、解説の丁寧さに対する不満が増えており、また今回の昼間部アンケートよりも多くなっています。「講義の進め方が早過ぎる」、「わかりにくい」という意見は専門科目・語学の双方で散見されました。カリキュラムではイブニ

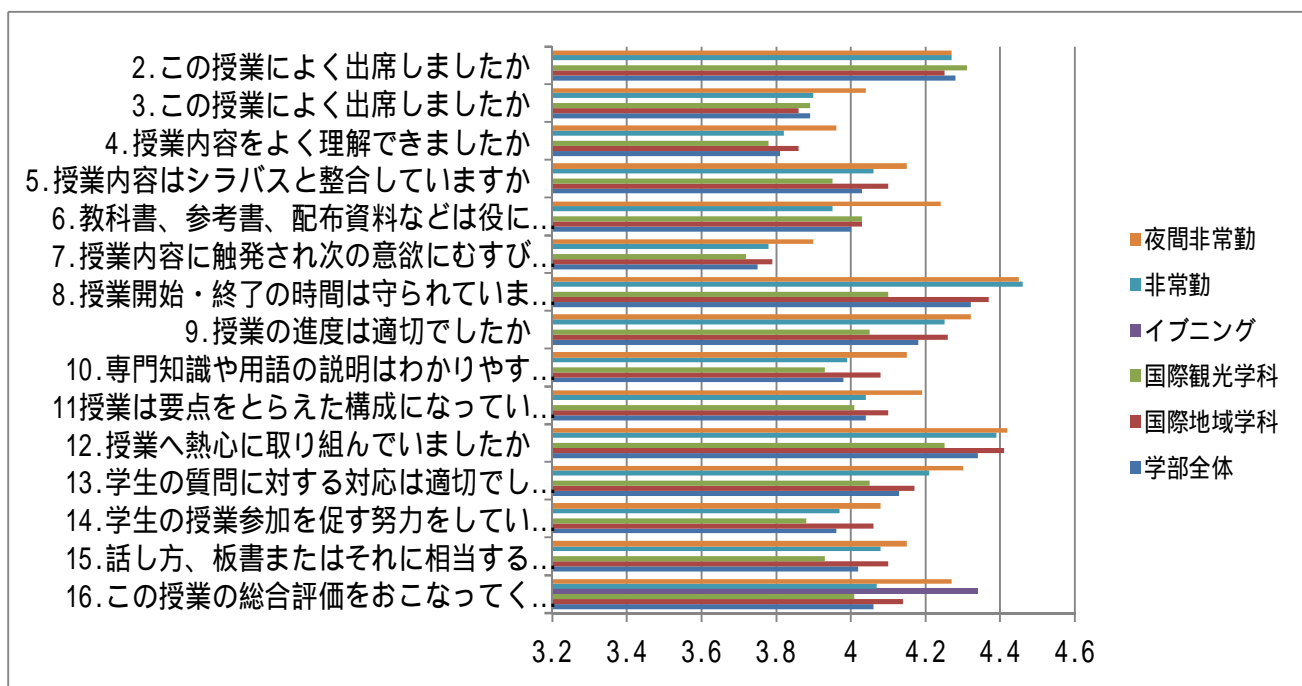
ングコースも基本的に昼間部と同じ科目・同じ講義内容になっているため、教員が昼間部と同じ進度で授業を進めていることが、こうした不満を生み出す一因になっている可能性も考えられます。今回のアンケートを踏まえて、イブニングコースを担当する教員は、学生が正しく理解できているかどうか、進度は問題ないか、授業についてきているか等毎回細かいチェックと確認の手続きを踏むことが必要と考えます。

2. 「ゼミが4年生しか開講されない」、「1年次に基礎ゼミを受けても、2年次以降ゼミがないので中途半端」等ゼミに関する不満や開講を求める意見が多く出されています。現在、4年次にゼミの開講を予定していますが、アンケートの意見を参考に、イブニングコースにおけるゼミの位置づけやその拡大の可否についても検討する必要があります。

3. ゼミの少ないことに加えて、語学学習では、第2外国語が採れないことへの不満が出ていました。イブニングコースの性格上、昼間部と同じだけの外国語の科目を揃えることには難しい問題もありますが、学生の意見を反映し、多様な外国語教育の機会を提供できるよう工夫が求められています。科目選択の余地が限定されることに関して、昼間部の授業をもっと多く取れないかとの希望も出されていました。これも継続検討事項と考えます。

4. 購買部で教科書が購入できなかったとの指摘がありました。今後、同種の指摘が出された場合には、イブニングコースの学生に対する教科書販売システムに問題がないかどうか、アンケートの実施等により確認することも必要と思われる。

図1 授業評価アンケートの集計結果



出典：国際地域学部 2012 年度春学期授業評価アンケート結果から作成